特定非営利活動法人AMDA国際医療情報センター

News Letter

在日外国人に日本人と変わらない医療を

2016.4
No.96

● 巻頭特集

25歳の覚悟

2016年4月17日、AMDA国際医療情報センターは25歳を迎えました。日本語の不自由な外国人患者さんからの相談に毎日耳を傾け、走り続けた25年です。NPOという組織で続けてこられたのは、多くの方からのご支援と励ましがあったからこそ。改めて感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

相談電話を受ける

患者さんからのお電話でどのような情報が必要か判断し、医療機関を探し始めるのですが、検索サイトを利用するだけでは適切な情報にたどりつけないのが実情です。25年間積み重ねてきた情報と経験をもとに手探りが続きます。医療機能に応じた情報選択をしつつ、相談者に日本の医療の仕組みを説明（しばしば説得も）しながら、多言語で情報を提供します。このプロセスを毎日繰り返し、設立以来全国から自主事業で約83,000件、その他すべてで約210,000件のご相談に対応してきました。

NPO法人は公共性が高いと考えられているからでしょうか、多くの自治体、国際交流協会、外国人支援団体等の情報紙やウェブサイトに、相談窓口として掲載・リンクされています。非営利的な価値観に立脚している日本の医師、医療機関に利害関係なく中立的にアクセスできるのも、NPOならではの強みではないかと受け止めています。

相談電話から電話医療通訳へ

医療情報を提供した後、必要であれば、受診時の電話医療通訳も実施しています。言葉の通じる医療機関が近隣に見つからない場合も、電話通訳なら受診をサポートすることができます。

患者さんへのサポートとして始めたサービスですが、医療機関にとっても患者さんとの意思疎通は不可欠と推察します。ところが患者さんが電話医療通訳の利用を望んでも、医療機関側がそれを受け入れてくれるとは限りません。目の前にいない通訳を利用することへの不安や不便さが足かせとなっているのだと思われますが、同行者を含めた患者側の日本語でのコミュニケーションに不安があるような場合、ぜひ私たちのサービスを利用してもらいたいと思います。業務に関わる個人情報の保護には万全を期していますし、常に医療通訳としてのトレーニングも重ねています。突然医療通訳が必要になった場合でも、医療機関の規模を問わず、ご利用いただけます。

現在私たちは、全国で電話医療通訳の利用を進め、通訳のいる医療機関とも連携して、外国人患者が安心して医療へアクセスできるセーフティネットを形成することに力を注いでいます。相談電話も電話医療通訳も利用してもらわないことには、セーフティネットとしてつながっていきません。そのために私たちのサービスは無料でのご利用を保持しています。

NPOとして活動する

NPOは定款に定めた目的を活動の使命としています。「不特定多数の外国人がより安心して日本で生活できる」ことを目指して、日本人と同じように医療へアクセスできるよう、上記の事業を実施しています。したがって、特定の受益者向けに個別のサービスを構築することは困難と言わざるを得ません。民間サービスが育ってきている中で、NPOだからこそできることは何なのか？ 改めてご提示していく責任を痛感しています。

25年前に活動を始めたころと比べると、地域に暮らす、あるいは訪れる外国人の方の安心のために多言語での情報提供を検討する自治体や、医療通訳の必要性を理解する方が増えてきています。2020年には東京オリンピックも開催されることとなり、私たちの活動がお役に立てる場面もさらに増えることでしょう。より多くの依頼に対応できるよう、人材育成と組織のパワーアップに励んでいく所存ですので、今後ともご支援をお願いいたします。

AMDA国際医療情報センター
事務局長　鈴木亮子

● 活動・サービス内容

センター東京　電話番号：03-5285-8088

●対応言語および時間
英語・中国語・スペイン語・韓国語・タイ語：毎日9:00～20:00
ポルトガル語：月、水、金曜日9:00～17:00
フィリピン語：水曜日13:00～17:00
ベトナム語：木曜日13:00～17:00

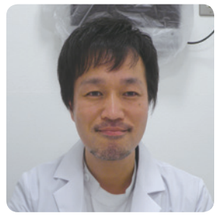
● センターホームページ「問診表等外国語版」のご案内

アドレスはこちら！ダウンロードもOK！

http://amda-imic.com/

外国人および医療機関向けに下記のような文書や書式を英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、日本語で作成（「こころの健康を守るために」はタイ語、ベトナム語、ハングル、フィリピン語版もあり）。ぜひご利用下さい。

● Visiting Doctors 協力医訪問



ナカムラクリニック 中村 和憲 先生

大阪駅からJR環状線に乗っていくと、円のほぼ反対側に寺田町駅があります。傍を走る竜田越奈良街道は、いにしえの時代聖徳太子が奈良との往復に使った道とのこと。ナカムラクリニックはその寺田町駅前に位置しています。院長の中村和憲先生にお話を伺いました。

外国人患者を受け入れるようになったきっかけなどをお聞かせください。

まずは、僕の実家が、このビルの上階にあるボクシングジムなんですね。幼い頃からリングがあって、日本の選手と試合する時はメキシコ人、韓国人などいろいろな国の選手がよく来て、家で練習したり泊まり込んだりしていたこともあって、外国人にはなじみがあったんです。日本にはたくさんの外国の方が住んだり、観光で来るようになってきたので、その方たちと、通訳士をつかわず、直接的に英語でやり取りができるということ、患者が直接英語で症状を伝えることができれば安心感があるじゃないですか。当然通訳士の方がいればベストなのでしょうけど。我々のような医療人も世間のグローバル化に協力すべきだと思います。自分でできるだけのことをやって、患者さんを診たい。日本で働いている方で、日本語が堪能な方でも、体のことって英語で話したがる。それを受けるようにしています。日本語と英語どっちにしますかとむこうが聞いてきます。でもからだのことだったら英語でしゃべりたいというので、それを受けています。ここは日本なのであいさつは日本語でしています。お大事にしてくださいも、日本語、その後、英語で話しています。

他の医療機関では外国人を受け入れたいという医師の方がいらっしゃっても、他の医師や、看護師、医療事務などを含めた職員全員が外国人の受け入れに賛成するということは難しいようですが・・・。

まさにそうで、うちでも、初めに立ち上げたときはあまり皆は乗り気ではなく、苦手意識があったようですが、1年半くらいさせてもらった今となっては、非常に良かったと言ってくれますね。看護師などが海外文化を学べると言ってますね。道で外国人に話しかけられても、緊張せず、苦手意識なく接することができると。外国人患者さんが、英語で院内に入ってきても、日本語で対応しています。全然わからなくてもアイコンタクトとかで、英語の問診票を渡してやっています。

外国人診療をしていて思い浮かぶことは2つです。1つは絶対にアポイントメントをとってくる。こっちは非常に迎えやすいです。ただ来ない方もいらっしゃいますが、これは別として。2番目はものすごく症状がはっきりしていて、患者さんは、聞いてほしくて必死で話してくるので、傾聴しやすいですね。ひたすら聞いていけば、日本人の方だけではなく、外国人の方ともスムーズに信頼関係がとれるのではないかと思っています。人にもよりますが。お一人、腰痛精査のため本人が希望されたので、大病院へ紹介したのですが、大病院では数万円かけて通訳士がついてくる。患者にはきついですよね。それを聞いて、大病院は外国人患者にとってなかなかアクセスしやすいものではないと感じました。大病院には専門医療があるので通訳士が要るでしょう。僕らのところのような、僕はよく mom & pop クリニックって言ってますけど、意味は地元のクリニックみたいな感じですが、できるだけ話を聞かせてもらって、保険を持っている人も、持っていない人も診れるように努力しています。

なぜお医者さんになろうと思われたのでしょうか？ ボクシングもされていたのですよね。

外科医にあこがれたからです。小学校低学年の頃テレビドラマを見て、手術もできるし患者も診れて、あこがれました。幸い親にもチャンスを与えてもらえたので。ボクシングは、今はたまに教えに行く程度です。

こちらのクリニックではいろいろな種類の検診を受けることができ、また、往診もしていらっしゃいますね。

専門は循環器と消化器科です。心臓外科で勤務し、博士号は消化器でとったので標榜科目は2つあげています。最終的には内科の勉強をしたので手足以外のところは診ています。末期がんの方とか、脳卒中後の通院困難な方に対して往診をしています。これから外国人患者も高齢化して来たら、これらのことも母国語で対応できるようになれば幸せではないでしょうか。

対応は英語以外にもされていますか。土地柄、韓国語、中国語の方もいらっしゃるのではないでしょうか。外国人患者は年間どのくらい来られていますか。

残念ながら英語だけです。中国の方、ベトナムの方、韓国の方が地域的に結構たくさんいらっしゃいますが、日本語で対応しています。彼らは日本語を勉強してきて一生懸命しゃべります。これらの国の旅行者は来られないですね。欧米の方は来られます。外国人患者数は日によって違うから、平均したらそんなに多くない。1日2人から5人位です。

どのような目的で来院される方が多いですか。

様々ですが、外国人患者さんは、やっぱり QOL、つまり日常生活に支障を来すような症状、喘息、外傷、感染症ですね。あとは風邪が治らないとか、甲状腺疾患も意外と多いです。バースコントロールも多いですが、よそを紹介しています。2人、日本では未公認のバースコントロールの注射を希望される方がいらっしゃって、日本ではできないことを説明しました。

どのようなご趣味をお持ちですか。

ドライブです。田舎道を走ります。奈良、和歌山方面へ行きます。あとボクシングで汗をかく程度です。

＜インタビューを終えて＞

昨年3月に協力を申し出る電話を下さり、熱い思いを聞かせてくださった中村先生に、どうしてもお目にかかってもう一度お話を伺いたいと思いました。そんな中村先生と語学の勉強方法やコミュニケーションをとるということについて、個人的に意見交換をさせて頂き、先生がどんなに努力されているかを感じることができました。ありがとうございました。

（センター関西　I）

ナカムラクリニック

〒543-0052 大阪府天王寺区大道4丁目10-15　TEL/FAX：06-6771-0266

月曜、火曜、木曜、金曜　9:00-13:00 16:00-19:00、土曜 9:00-12:00

（平成28年6月2日(木)より診療時間変更となります。詳細はウェブサイト http://nkcl.net/ でご確認ください）

せかいのことば

各国のことわざや表現をとおして様々な文化に触れるせかいのことば第2弾。今回は痛みの表現について調べてみた。

痛みは、もちろん、人それぞれ

社会学および人類学者であるダヴィド・ル・ブルトン著の Anthropologie de la doleur（痛みの人類学）によれば、苦しみの表現は、生理的、心理的そして社会的要素が影響するゆえに人それぞれであり、痛みを感じている本人以外の者が痛みの実際の度合いを断定することは不可能である。[1] 患者さんの自覚症状を理解するために医療現場のスタッフが苦労するのもやむをえないことなのだろう。

日本語におけるオノマトペの多様性

日本語では、「裂けるような」「ねじれるような」などの比喩の他、チクチク、ビリビリ、ジンジン、ズキズキ、ズキーン、ズキッなど、さまざまなオノマトペ（擬音語・擬態語）が痛みを表すために使われている。また、方言によって多彩なオノマトペがあり、患者本人は方言だとは認識せずに使っていることも多々あるようで、国立国語研究所の竹田晃子特任助教いわく、「東日本大震災では、支援に駆けつけた医師が方言を理解できず、無力感で引き揚げてしまったケースもあった」と報告されている[2]。

他の言語では？

さて、他の言語ではどのような痛みの表現があるのだろうか。当センターのスタッフに尋ねてみたところ、韓国語では次の例があることが分かった：

지끈 지끈

（日本語のズキンズキンに該当。発音はジックンジックン）

얼얼（日本語のヒリヒリに該当。発音はオルオル）

また、タイ語には次のような表現があるそうだ：

หนึบๆ（日本語のガンガンに該当。発音はヌップヌップ）

จี๊ดๆ（日本語のキリキリに該当。発音はチーッチーッ）

一方、ベトナム語は日本語に負けないほどオノマトペが豊富な言語なのだそうだ：

Nhưng nhức

（日本語のチクチクに該当。発音はヌンニュック）

Nhức nhối

（日本語のズキズキに該当。発音はニュックニョイ）

その他の言語スタッフからは、痛みを表現するためのオノマトペは特に思いつかないとのことで、比喩で表現する例が挙げられた：

Stinging pain（英語：刺すような痛み）

烧灼般疼痛（中国語：焼けるような痛み）

Dolor perforante（スペイン語：突き抜くような痛み）

Dor explosiva（ポルトガル語：爆発するような痛み）

Parang pinupukpok ng martilyo

（フィリピン語：ハンマーで打たれているような痛み）

ところで、痛みの表現ではないが、オノマトペに因んだ症状の名称をここでひとつ思い出した。不随意的、突発的な反復性の筋肉運動や発声のことを英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語など様々な言葉で *Tic* と言い、日本語でも「チック」と称するが、確か、この単語の語源は突発的な早い動きを表すオノマトペらしい[3]。どうりで、時計のチクタクに似ているわけだ。

1. El País “Diferentes formas de vivir el dolor” http://elpais.com/diario/2005/11/08/salud/1131404404_850215.html (2016/2/24 アクセス)
2. 熊本日日新聞 「医療 QQ：「ズキズキ」「ビリビリ」... 痛みの違い "音" で表現」（2014年4月25日朝刊掲載） http://qq.kumanichi.com/medical/2014/04/post-2334.php (2016/3/4 アクセス)
3. WordReference.com Online Language Dictionaries < http://www.wordreference.com/definition/tic> (2016/3/7 アクセス)

ご寄付のお願い

当センターは会費・寄付などにより運営されています。ご支援よろしくお願い申し上げます。

会員募集：センターの活動を援助してくださる会員の方を募集しております。
当センターは特定非営利活動法人 AMDA（本部岡山）とは別会計で、独立した会員制度を設けております。
AMDA 本部の会員とは別ですので、お間違えのないようお願いいたします。

【会員の種類と会費】 4 月 1 日～ 3 月 31 日までを 1 年度とする

年 会 費	個　人	1 口 6,000 円	団　体	1 口 20,000 円
賛助会員	学　生	（高校、大学、専門学校生）	1 口	2,000 円
	ジュニア	（中学生以下）	1 口	1,000 円

個人会員および団体会員は半年ずつの分納が可能です。
4 月から翌年 3 月までを 1 年間といたしますが、初年度のみ、10 月以降に賛助会員に加入される場合は、個人会員は 3,000 円で、団体会員は 10,000 円でご入会いただけます。賛助会員は何口でも結構です。

【寄付】 おいくらからでも結構です。

会員および寄付の振込先

郵便振替　00180-2-16503
加入者名　AMDA国際医療情報センター
＊ 銀行振り込みご希望の方は、お手数ですがセンター東京（Tel: 03-5285-8086）までご連絡ください。

消化器科・外科・小児科
小林国際クリニック
Kobayashi International Clinic
小林國際医院
【診療時間】
平　日　午前 9:15 ～ 12:00
　　午後 2:00 ～ 5:00
土曜日　午前 9:15 ～午後 1:00
休診日：　水、日、祝日
〒 242-0005
神奈川県大和市西鶴間 3-5-6-110
（小田急江ノ島線　鶴間駅下車徒歩 4 分）
TEL：046-263-1380
http://5884-international-clinic.com

医療法人社団　慶泉会
町田慶泉病院
PAX INTRANTIBUS SALUS EXENTIBUS
（旧町谷原病院）
外科・内科・整形外科
肛門科・泌尿器科
血液透析センター・療養病床
回復期リハビリテーション
訪問看護ステーション
〒 194-0003
東京都町田市小川 1546-2
TEL：042-795-1668

内科・リハビリテーション科
医療法人　隆福会
福川内科クリニック
【診療時間】
平　日　午前 9:30 ～ 12:00
　　午後 4:00 ～ 6:30
土・日曜日　午前 9:30 ～午後 12:00
休　診　日：　木曜日、祝日、2、4、5 日曜日
〒 537-0024
大阪市東成区東小橋 3-17-7
TEL：06-6974-2338

編集後記

昨秋、赤く紅葉した葉は美しく、セール価格が魅力的なブルーベリーの苗を 2 種類購入しました。実を付けるには 2 種類あるとよいとのことでした。鉢とブルーベリー用の土を購入し、その場で植え替えしてもらい、枝を折らないように細心の注意を払いながら、30 分駅まで歩き、電車に乗って帰宅。２ヵ月ほどで片方の木は落葉。２月の終わり頃から赤い葉が少し残った方から緑色の小さな芽が無数に伸び始めたのに、丸坊主君には春の気配がなかなかやってきませんでした。ところが先週、本当に小さな、小さな芽が、１つ、２つと覗き始めました。同じブルーベリーでも、こんなに個体差があるのかと驚いています。実を食べるにはまだ何年かは待たなければならないようですが、着実にその日は近づいてきています！ハズ・・・。（事務局　I）

編集発行：特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター

センター東京：〒 160-0021 新宿区新宿歌舞伎町郵便局留　TEL 03-5285-8086　FAX 03-5285-8087
大阪オフィス：〒 537-0024 大阪市東成区東小橋 3-17-7　TEL 050-3598-7574
町田オフィス：〒 194-0003 東京都町田市小川 1546-2　TEL 042-799-3759
※郵便局留でメール便を送っていただくことはできませんのでご注意下さい。**お問い合わせ、発送物はセンター東京（新宿）へお願いいたします。**

発行責任者　特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター理事長　小林米幸

理事長受賞歴：外務大臣表彰（平成 13 年）、（財）アジア福祉教育財団より感謝状（平成 13 年）、
慶応義塾大学医学部三四会奨励賞（平成 15 年）、神奈川医学会学術功労賞（平成 17 年）
かながわレッドリボン賞（平成 24 年 3 月 26 日受賞式）
制作：株式会社インターブックス